

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2023

7月中旬～8月中旬

- 季節のおすすめ散策コース ---
(ゆっくり歩いて1時間)
- おてがるコース ---
(ゆっくり歩いて30分)



トノサマガエル(アカガエル科)
緑に黒い斑点模様が特徴的なカエル。田んぼに水が張られる頃、繁殖期を迎えます。



ノカンゾウ(ススキノキ科)
ヤブカンゾウと同じく、若葉やつぼみは食用になります。



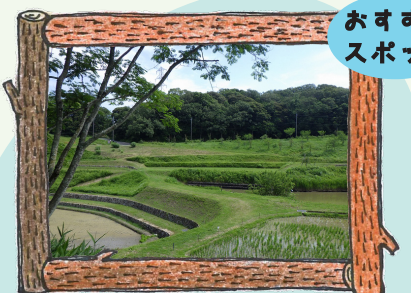
ネキトンボ(トンボ科)
平地の池や水田などで暮らす、全身真っ赤なトンボ。



ミヤマカラスアゲハ(アゲハチョウ科)
光を反射して青く光ってみえる、里山を代表する美しいアゲハチョウです。



ショウリョウバッタ(バッタ科)
明るい草地で暮らしている細長い葉っぱのような姿をしたバッタ。メスはオスの2倍ほど大きくなります。



里山美林散策路～緑陰の散策～
早苗の棚田景観を、木陰より見下ろしながら散策ができます。



リョウブ(リョウブ科)
昔、食料の少ない時に、若葉を摘んでリョウブ飯にしたとか。



オニユリ(ユリ科)
鮮やかなオレンジ色に濃紫色の斑点模様のある、とても派手なユリ。コオニユリと違って、ムカゴができます。



ウバユリ(ユリ科)
花が咲くころに葉が枯れはじめる様子を姥(うば)に見立てた名前ですが、葉が残ることもよくあります。



木見川散策路～緑陰の散策～
樹木の葉が夏の日差しをかわし、心地の良い涼しげな散策ができます。



ユウスゲ(ススキノキ科)
キスゲとも。花は夕方ひっそりと咲き、翌朝には閉じてしまいます。



ヤブカンゾウ(ススキノキ科)
花を觀賞するだけでなく、若葉やつぼみは食用になります。



イネ(イネ科)
穂の外にとび出して白く見えるのは「おしべ」の部分。田んぼで一斉に咲いて、秋の実りの準備をします。



ミソハギ(ミソハギ科)
「みそぎ」の儀式に使うことが名前の由来だそう。ちょうどお盆のころに咲くので、お供えの花としてもよく使います。



キキョウ(キキョウ科)
秋の七草の「あさがお」はキキョウのこと。夏から咲きはじめます。



ウツボグサ(シソ科)
ウツボとは、弓矢を入れておく道具のこと。真夏に花穂が枯れることから、夏枯草とも。西洋でもセルフヒールというハーブとして活用されています。



開花期

花の後

